

## 第11回 RIEC スピントロニクス国際ワークショップ

### The 11th RIEC International Workshop on Spintronics

開催日：平成25年1月31日（木曜日）～2月1日（金曜日）（2日間）

開催場所：東北大学電気通信研究所 ナノ・スピン実験施設

参加人数：127名

2013年1月31日、2月1日の両日に、本学電気通信研究所が主催する標記国際ワークショップが附属ナノ・スピン実験施設において開催された[組織委員長：通研・大野英男教授、本学省エネルギー・スピントロニクス集積化システムセンターでの3rd CSIS International Symposium on Spintronics-based VLSIs（1月31日、2月1日）とのジョイント開催]。参加者127名の内、国外からの参加者は30名を数えた。アメリカ、フランス、韓国、日本から20名の研究者を招待講演者として迎えた。ポスターセッションでは、台湾、日本から22件の一般講演があった。本ワークショップではスピン注入磁化反転、磁壁移動、電界効果磁化反転などのスピントロニクス材料・素子の基本特性から、それらを利用した不揮発性メモリ・論理集積回路の実証まで幅広い話題に関して活発に議論された。これらの発表・議論を通じ、スピントロニクス集積回路における省エネルギー化および高性能化の重要性と、更なる微細化・高集積化に対する研究課題が明確になり、将来の研究開発の方向性を示す有意義なワークショップとなった。また、ポスター発表を含め多くの学生の参加もあり、学生の国際性を育む機会の提供という観点からも大きな成果を得ることができた。



第11回 RIEC スピントロニクス国際ワークショップ参加者集合写真